

## 取組課題1 医療機能の充実・強化

## &lt;取組項目&gt;

取組項目	令和元年度の主な取組内容	評価の理由と今後の課題	令和元年度の達成度	進捗状況
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>				
① 救命救急医療の充実	①救命救急センターの安定的な運営及び体制強化に向けた救急医及び救急救命士の安定的な確保 ②川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係会議への参加及び協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環器疾患に係る救急車受け入れ拡大を目指し、循環器内科医師が直接対応するかわさきコロナリーホットラインの運用を9月から開始しました。消防署への訪問を行い、救急隊に向け周知を行いました。</li> <li>救急自動車搬送受入台数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少しました。しかしながら今後増加が予想される救急応需に対応するため、医療人材の安定的な確保を図るとともに、川崎病院医療機能再編整備による救急受入体制の強化に取り組みます。</li> <li>引き続き、川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係者会議への参加及び協力を行います。</li> </ul>	C. ほぼ目標どおり	II. 一定の進捗がある
② 災害医療機能の維持	①派遣要請対応 ②各種訓練実施・参加 ③DMAT隊員の養成 ④患者に合わせた備蓄食料の拡充 ⑤災害時対応機能の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害派遣医療チーム等の派遣要請応需率は、ダイヤモンド・プリンセス号に係る新型コロナウイルス感染症患者の搬送要請に対応し、搬送及びDMAT本部の活動を行いました。</li> <li>9月に災害時医療対応訓練を実施しました。</li> <li>各種訓練（政府訓練、市総合防災訓練など）に参加し、隊員の技能向上に努め、新たな隊員養成を予定しています。</li> <li>備蓄用飲料水及び食品は消費期限に応じて入れ換えを行うとともに、患者さんの状態に応じた摂取しやすい食材への変更も進めています。</li> <li>今後も継続して隊員の技能維持、養成、備蓄の強化に努めていきます。</li> </ul>	B. 目標を上回って達成	
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>				
○がん診療機能の強化	①神奈川県がん診療連携指定病院の継続 ②がん診療の充実・強化及び関係医療機関との連携・推進 ③PET-CTの運用開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県がん診療連携指定病院については、指定要件が令和元年に変更されましたが、令和2年3月に神奈川県によるヒアリングを受け、令和6年3月までの指定の更新を受けました。今後とも、指定継続のための取組を推進していきます。</li> <li>がん診療に関する連携の推進、PET-CTの運用促進のため、広報資料を作成するとともに、医療機関訪問を積極的に行いました。今後も、これらの活動を継続し、がん診療の機能強化に努めていきます。</li> </ul>	C. ほぼ目標どおり	II. 一定の進捗がある

取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実			
① 小児・周産期医療の確保	①近隣の周産期医療機関との協力体制の強化 ②周産期・小児医療サービスの向上 ③周産期メンタルヘルスケアの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「救急面の活動性」を表す「周産期救急患者受入数」は、目標には至りませんでした。が、近隣周産期医療施設との連携を今後も維持する方針です。</li> <li>・「周産期医療の地域的ニーズの規模」を表す「NICU及びGCUにおける新規入院患者数」は、若干減少しましたが、今後分娩件数の大きな増加が見込まれていないことから、周産期救急関連の入院数を維持していくことが課題です。</li> </ul>	E. 目標を大きく下回った
② 内視鏡検査・治療の充実	①地域医療機関からの検査依頼受入れの拡充 ②内視鏡検査異常所見を認めた患者への適切な処置及び経過観察 ③膵・肝胆内視鏡検査の正確な診断と適切な治療の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡検査件数については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少しましたが、内視鏡治療の実施件数については、増加傾向で目標値を達成しています。</li> <li>・胃がん検診の制度が変わり、令和2年度から大幅に検診件数の減少が予想されるため、高齢者増加による状況を鑑み、内視鏡検査の必要性を地域に啓蒙していく必要があります。</li> </ul>	B. 目標を上回って達成
③ チーム医療の推進	①栄養サポートチームによる効率的な栄養管理の実施 ②栄養サポートチーム専任者育成のための認定研修会への参加推進 ③病院職員を対象としたNST研修会の実施 ④呼吸サポートチーム回診の実施 ⑤緩和ケア提供のための継続的な体制整備及び患者総合サポートセンターとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養サポートチーム回診は入院患者が減少したこともあり、前年度より患者数が減少しました。引き続き効率的な栄養管理を行ってまいります。専任者研修へ参加を推進しスタッフ育成にも努めてまいります。</li> <li>・多職種による週1回の病棟ラウンドに加え、専従看護師による病棟及びベッドサイド訪問を毎日実施しています。</li> </ul>	D. 目標を下回った
Ⅱ. 一定の進捗がある			

## 取組課題の取りまとめシート

取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進			
① 地域医療連携の推進	①地域医療支援病院の継続 ②地域医療連携の会の開催 ③紹介元医療機関への返書等による情報交換の推進 ④病院・診療所等訪問の実施 ⑤PET-CT等検査機器の共同利用促進 ⑥県難病医療支援病院としての取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域医療連携の会」を9月に開催しました。前年度を上回る多くの医療機関等に御参加いただき、当院の取組状況等について、情報発信を行うとともに、医師の顔の見える関係を構築することで、地域の医療機関等との連携強化に繋がりました。</li> <li>・返書の実施状況を委員会等で確認し、返書を含めた情報交換の推進を図っています。</li> <li>・延べ212件の医療機関を訪問しました。川崎市内だけでなく、大田区、鶴見区の訪問も強化し、新たに連携登録医が50機関以上増加するなど、地域との連携関係強化に努めました。</li> <li>・検査機器の共同利用については、特にPET-CTの利用促進のため、令和2年度も近隣の医療機関へ積極的に訪問し説明を行う等、引き続き利用の推進に向けた取組を行っていきます。</li> </ul>	A. 目標を大きく上回った
② 地域包括ケアシステムの推進	①「地域ケア懇談会」の継続実施 ②地域の医療従事者を対象とした症例検討会や勉強会の開催 ③多職種協働による地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア懇談会は令和元年7月と令和2年2月に開催し、病院内外から合計205人の参加がありました。</li> <li>・勉強会、症例検討会を主催する診療科等における実施体制見直しなどにより開催回数が減少し、それに伴って参加者数も減少しました。</li> <li>・令和2年度においても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため勉強会、症例検討会等の延期や中止が相次ぐ見込みですが、地域の医療機関との連携を強化する貴重な機会であるため、感染拡大の状況を見極めたうえで、開催及び参加の呼びかけを行っていきます。</li> </ul>	D. 目標を下回った
取組項目(5) その他医療提供体制の強化			
① 精神科救急医療の強化	①県精神科救急体制に対応するための県応需病床2床の円滑な運営 ②救急応需に必要な精神保健指定医、精神保健福祉士の確保 ③総合病院精神科の役割として精神疾患を有する身体合併症患者の受入れの実施（病病連携、院内他科連携）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急患者受入数については、4県市協調体制の精神科救急システムを経由した入院であるため、当院でコントロールができるものではありませんが、前年度より減少し、目標値に達していません。</li> <li>・今後も患者の受入れが円滑にできるよう運用を続け、病病連携の促進、県精神科救急体制との調整等を進めていきます。</li> <li>・精神科救急応需病床における平均在院日数は、精神疾患を有する身体合併症、発達障害、知的障害、認知症等患者の後方移送が遅れたことなどから、目標達成には至りませんでした。</li> <li>・しかしながら、神奈川県精神科救急医療システムの中で、基幹病院としての役割を果たすため、医療人材の安定的な確保等に取り組み、精神疾患を有する身体合併症患者の受入れを実施します。</li> <li>・今後も、救急体制が円滑に行えるよう、県及び他政令指定都市に協力していきます。</li> </ul>	E. 目標を大きく下回った

## 取組課題の取りまとめシート

② 感染症医療の確保	①川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会への参加による診療体制確保及び周辺医療機関との役割分担の確認 ②検疫所との合同患者受入訓練実施による対応方法強化、個人防護具の着脱訓練、及び感染対策や管理に従事する職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型インフルエンザに対応するため、川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会に参加しました。</li> <li>・ 神奈川県新型インフルエンザ助成制度による簡易陰圧装置の申請を行いました。</li> <li>・ 東京検疫所川崎支所との合同患者受入訓練を11月に実施し、対応方法や個人防護具の着脱訓練などを見直し、実施方法を変更しました。訓練を通し感染対策や管理に従事する看護師の育成に取り組みました。</li> <li>・ 2月以降厚生労働省・神奈川県・空港検疫所・川崎市から新型コロナウイルス陽性患者の受入要請が20件あり、ダイヤモンド・プリンセス号から11名、市内発生を9名受け入れました。</li> </ul>	B. 目標を上回って達成	Ⅱ. 一定の進捗がある
③ リハビリテーション機能の強化	①新規採用職員の育成と臨時職員の増員 ②病棟との連携強化 ③病棟でのリハビリテーションの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション実施単位数は、退職等により職員の確保ができなかったため目標値には至りませんでした。実施単位数には職員の能力も影響することから、引き続き適正なりハビリ処方の継続を行うとともに、新規採用職員の育成と、院内での連携強化を継続して行っていきます。</li> <li>・ 機能再編推進計画に則って、病棟でのリハビリテーション医療を積極的に推進していきます。</li> </ul>	D. 目標を下回った	
④ 医療機能再編整備の推進	①機能再編推進委員会を適宜開催 ②公募によるエネルギーサービス事業者決定、設計着手 ③救命救急センター棟増築・既存棟改修の設計着手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「川崎病院医療機能再編整備基本計画」（平成30年3月）に基づいた事業を実施するため、必要な諸条件の整理や課題の検討等を進めています。検討等に当たっては、機能再編推進委員会を5、7、9、12、3月に開催し、改修対象診療科等に個別ヒアリングを実施するなど、院内の意見集約等を行いました。今後も引き続き、機能再編推進委員会を開催し、情報の共有及び課題の整理検討について進めてまいります。</li> <li>・ エネルギーサービス事業については、6月の公募、10月の評価委員会を経て、事業者を決定しました。その後、基本協定を締結し速やかに設計に着手しており、今後は設計の完了及びその設計に基づく工事にに向けた準備を進めていきます。</li> <li>・ 救命救急センター棟増築・既存棟改修についても設計に着手しました。</li> </ul>	C. ほぼ目標どおり	

## &lt;外部評価&gt;

## 委員会委員による意見等

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。  
なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

## 【取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化 &lt;① 救命救急医療の充実&gt;】

- ・ 成果指標である三次救急搬送患者応需率が評価3、救急自動車搬送受入台数が評価5とすると、目標の達成指標の考え方に照らし合わせれば、達成度はCではなくDではないか。
- ・ 市立病院が診るべき患者さんをしっかり診ていることを示すことが、本来的な評価であると考えるので、次期中期経営計画では各指標の設定についてよく検討していただきたい。